

平成29年度
第2回
(通算43回)



歯学部公開講座



口腔保健と全身の健康シリーズ (43)

演題

お口の中にできる“がん”ってどんな病気？

口腔外科学講座 教授 大木 秀郎
病理学講座 教授 浅野 正岳

日時

平成29年11月4日(土) 13時30分～

場所

歯学部4号館3階第3講堂

主催／日本大学歯学部

東京都千代田区神田駿河台1-8-13

<http://www.dent.nihon-u.ac.jp>

後援／千代田区

協賛／日本大学総合生涯学習センター

【講演内容】

我々日本人の死因の第1位は悪性新生物すなわち“がん”（癌）です。癌と聞くと肺がんや大腸がん、肝臓がんなどを連想しますが、お口の中にも“がん”が発生することはご存知でしょうか？お口の中の“がん”は口腔がんと総称されており、癌による死亡全体の2%という統計結果が出ており、決して稀なものではありません。癌の発生は年々増える傾向にあり、1985年の発生件数と比較すると2015年には約2倍に増えているのです。現在では、年間約88万人が新たに何らかのがんを発症し、約37万人ががんで亡くなっています。すなわち、2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなっているのです。口腔がんに関しては不思議な統計があります。先進国における口腔がん患者数が減少傾向にあるのに対して、わが国では逆に増加傾向を示しているのです。これは一体どうしたことでしょうか？その原因の一つとして、口腔がんに対する我々日本人の関心の低さがあると考えられているのです。お口は消化器の入り口として食べ物を粉砕し、食塊を形成し飲み込む場所であるのと同時に、言葉を発するなどのとても大事な機能を営んでいます。ここに癌が生じてしまうとこれらの機能が大幅に障害されて生活の質（quality of life:QOL）が大きく損なわれることになってしまいます。お口の中がひりひりするとか、入れ歯が合わなくて困っている、最近ちょっと腫れてきたなどという症状を自覚されたことはありませんか？こうした症状を忙しい生活の中でついつい放置してしまっていることはありませんか？今回の公開講座では皆さんが自らお口の中の変化をチェックする方法や口腔がんになってしまった時の対処法、さらに口腔がんの基礎知識などについてお話しさせて頂こうと思っています。

【講演者プロフィール】



おおき ひでろう
大木 秀郎

<略 歴>

昭和52年 日本大学歯学部卒業
昭和56年 日本大学大学院歯学研究科修了 歯学博士
昭和56年 日本大学歯学部助手
平成15年 日本大学歯学部講師（専任扱）
平成17年 日本大学歯学部助教授
平成19年 日本大学歯学部准教授
平成19年 日本大学歯学部教授（現在に至る）



あさの まさたけ
浅野 正岳

<略 歴>

昭和62年 日本大学歯学部卒業
平成3年 日本大学大学院歯学研究科修了 歯学博士
平成3年 日本大学歯学部助手
平成15年 日本大学歯学部講師（専任扱）
平成16年 日本大学歯学部専任講師
平成21年 日本大学歯学部准教授
平成27年 日本大学歯学部教授（現在に至る）